

第9回子育てにやさしい移動に関する協議会  
議事概要（案）

日時：令和6年11月25日（月） 14：00～16：00

場所：国土交通省総合政策局局議室（オンライン併用）

---

【議事概要】

＜ベビーカー利用の円滑化について＞

事務局から、ベビーカー利用の円滑化に向けた取組、ベビーカーマーク認知度調査の結果について報告。

○ベビーカーマークの認知度が約48%に対し、フリースペースの認知度が約6割なことから、フリースペースにもベビーカーマークの記載があるがフリースペースの認知度よりベビーカーマークの認知度の方が低い理由が分かれば知りたい。

○それぞれで質問をしていることから関連性を分析することは難しい。フリースペースにあるベビーカーマークに目がいていない可能性もあり、よりアピールできるような取組を実施出来ればと考える。

＜子育て予備軍としての大学生に対する子ども連れ外出教室の効果に関する研究発表＞

宇都宮大学 大森教授から、子育て予備軍としての大学生に対する子ども連れ外出教室の効果に関する研究について報告。

○大都市と地方都市では、差があると想定しているがどうか。

○地方都市だと公共交通に乗る機会が少ない。また、ベビーカー利用者も車で移動するため公共交通に乗る機会が少ないと考える。大都市と地方都市では、ベビーカーの認知度も違うが、意識も違うと感じた。

＜子育て移動応援の取り組みについて＞

各分野における子育て移動応援の取組について、各構成員・オブザーバー（JR 東日本、JR 東海、JR 西日本、日本民営鉄道協会、公営交通事業協会、日本旅客船協会、認定 NPO 法人びーのびーの、NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会）から取組事例について報告。

○交通事業者の取組において、ベビーカーを畳まずに入ることができるトイレや授乳室の整備がありとても素晴らしいと感じた。実際にどこにオムツ替えや授乳室があるかを事前に調べて外出される方が多いため、使用可能な場所があるという情報を分かりやすく入手できるとよりよいと感じた。

### <こどもまんなかアクション等の概要説明>

こども家庭庁から、こどもまんなかアクション等の概要について説明。

○こども家庭庁で実施している事業の中で発達障害など障害を持っている方は、どのような形で参画しているのか。当委員会で発達障害などをまだ充分扱えていない。しかし、構成員による各分野における子育て応援の取組の紹介を聞いても、発達障害の内容が一つも出てこないため、どのような扱いになるのか知りたい。こどもまんなかアクションは、発達障害抜きで考えていくのか、それとも含めて考えていくのか。

○こどもまんなかアクションは、発達障害などに関わらず、すべてのこどもに対して大事にしていく社会の機運を作っていくことを目的としたものである。そのため、紹介事例の中に具体的にはないが、社会全体としてそのようなこども達も含めて、支えていく機運を作っていく。

○市町村でこどもまんなかアクションをする際、飛行機への搭乗体験などを事例としてあげているのか伺いたいが、今のところないという認識でよろしいか。

○こども家庭庁の中でそのような事例は現在では把握していないが、飛行機に搭乗する際、どのような支援ができるのかということも、事例によっては、こどもまんなかアクションの中で紹介することも考えられる。

○こども基本法が昨年施行され、11条ではこどもの声を聞くことが自治体や関係団体に対して義務化されている。様々な場所でこどもを参画させることが必要ではないかと考えており、東京都は計画策定の中に、障害を持っているこどもが集まる場でのヒアリングを試行している。しかし、カームダウンやクールダウン等の設備はまだ広がっていない気がする。

### <子育て移動応援に関する今後の取組について>

事務局より、子育て移動応援に関する今後の取組について説明を行う

### <その他>

事務局より、ベビーカーマークや子ども用車いす等の認知度向上のための普及啓発

について説明を行うとともに、駅や車内等にポスター等を掲出いただくなど、引き続き、各事業者における継続的な協力を依頼。

○都心でのベビーカーの移動について課題が数多くあると感じる。例えば、途中までエレベーターがあるが、その先は階段ということがあり、その旨の表示がないために不便を感じている。せめて、この先エレベーターなしという現地表示や、エレベーターの配置情報のネット閲覧が整備されると、より便利になると考える。

以上